

今後の奈良県観光政策の方向性について (第1回本部会議用資料①)

令和6年5月15日(水)
奈良県観光局観光戦略課

今後の奈良県観光政策の方向性について

これまでの奈良県の観光政策

- これまでの奈良県の観光施策は、県外の他地域に比べ、ポテンシャルが高い社寺を始めとする既存の観光資源を外部に発信する文化施策的側面が強いものや観光客数の増加を目指したイベント開催等が中心であった。
- その課題として、県全体で高いポテンシャルを持つ観光資源に甘えて、情報発信以上に対策を講じず、ただ観光客が来訪するのを待つ「大仏商法」に陥っていた側面が否定できない。また、観光データを活用した政策の立案に係る取組も不十分であった。
- イベント開催等の誘客促進策についても、奈良公園周辺は、観光客の受け皿となる飲食店や宿泊施設があるため、「なら燈花会」のようなイベント開催による誘客にも一定の効果があるが、県内のその他の地域では、そのような受け皿環境がないため、誘客を行ったとしても、観光消費に結びつきづらく、観光産業としての意義に乏しかった。

今後の奈良県観光政策の方向性について

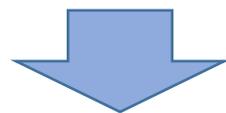
今後の奈良県の観光政策

- しかし、今後は、奈良県の持つ観光資源への認識が薄いインバウンド観光客への訴求力を高め、全世界を対象とした観光客獲得競争に打ち勝っていかなければ、**将来にわたって持続的に外国人観光客を増加させることは難しい。**
また、今後、国内市場も縮小が予想されるため、これまで以上に「修学旅行で来たことがある」だけでなく、観光客一人一人の満足度を高め、**観光消費額を高めるとともに、奈良県へのリピーター層を拡大していく必要がある。**
- そのためには、観光データ等を活用・分析しながら、県内のそれぞれの地域が持つ魅力を感度の高い観光客の視点で整備・演出することにより**観光地としての「磨き上げ」**を行い、**付加価値を提供することで、観光客の満足度を高め、県内での観光消費に繋げていく視点が欠かせない。**

今後の奈良県観光政策の方向性について

今後の奈良県の観光政策

- 具体的な方策として、これまでのような県全体を対象とした総花的なプランニングではなく、県内の**それぞれの地域にフォーカス**し、観光データ等を活用しながら、観光客の誘客が**実際の観光消費に繋がるよう地域の課題を地元と議論**し、それに基づいた**実効的な施策や事業を実施していく必要がある**。
- このような取組により、最終的には、県の基幹産業である観光分野における高い付加価値の提供を通じて、地域の宿泊業、飲食業、伝統産業、農林水産業など**多様な分野に経済効果が波及し、地域の活性化と奈良県経済の持続的かつ飛躍的な発展につなげていく**。



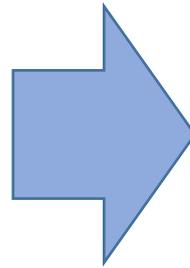
奈良県の**観光GDP**の**飛躍的かつ持続的な拡大**

今後の奈良県観光政策の方向性について



<これまでの観光政策の考え方>

- ポテンシャルに依存した**文化施策的**情報発信
- 誘客促進のための**イベント開催**が中心
- 奈良県全体を**総花的**にプランニング



<今後の観光政策の考え方>

- 観光地としての「**磨き上げ**」
- データ**を活用し、地域にフォーカスした**実効性**のある**取組**を推進
- 観光消費・経済発展**につながる観光施策